

問題6-5

【問1】③：1,500

〈資料1〉

	A社	
流動資産		
現金及び預金	2,100	
受取手形	300	
売掛金	1,500	← 差額
有価証券	720	
商品	900	
その他	80	
流動資産合計	5,600	← 後述

* A社の流動資産5,600 = 流動負債4,000 × 流動比率140% 〈資料4〉

* 流動比率 = 流動資産 / 流動負債 × 100

【問2】③：1,000

〈資料1〉

	B社	
流動負債		
支払手形	800	
買掛金	2,200	
短期借入金	1,000	← 差額
その他	500	
流動負債合計	4,500	← 後述

* 流動負債4,500 = 負債純資産合計18,000 × 流動負債の貸借対照表構成比率25% 〈資料4〉

【問3】③：16,750

A社商品		
〈資料4〉 →	商品期首棚卸高 650	売上原価 16,750 ← 差額
〈資料4〉 →	当期商品仕入高 17,000	
		商品期末棚卸高 900 ← 〈資料4〉

【問4】②：1,100

〈資料2〉

	B社	
～	～	
経常利益	1,800	←後述
特別利益	40	
特別損失	340	
税引前当期純利益	1,500	←差額
法人税, 住民税, 及び事業税	450	
法人税等調整額	△50	
当期純利益	1,100	←差額

* B社の経常利益1,800 = 総資本18,000 × 総資本経常利益率10% 〈資料4〉

【問5】⑤：3,000

A社のフリー・キャッシュ・フロー3,000

= 営業活動によるキャッシュ・フロー6,000 + 投資活動によるキャッシュ・フロー△3,000

【問6】①：(ア) 正 (イ) 正

ア) 問題文の通り。

* 粗利益とは売上総利益のことをいい、売上高から売上原価を引いた利益。

イ) 売上高売上原価率はA社 (83.8%) の方がB社 (85.0%) よりも低く、A社の方が良いといえる。

* A社の売上高売上原価率83.8% = 売上原価16,750 (問3参照) / 売上高20,000 × 100

* B社の売上高売上原価率85.0% = 売上原価25,500 (後述) / 売上高30,000 × 100

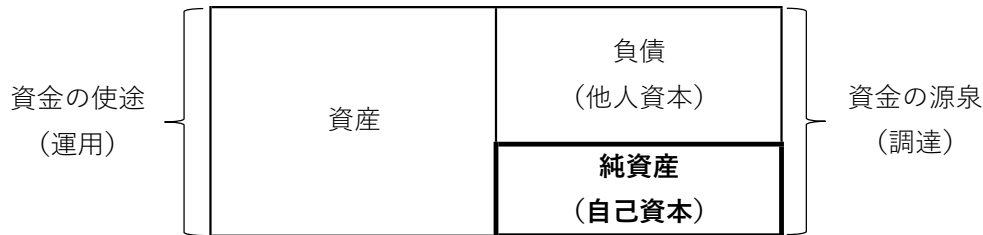
	B社	
売上高	30,000	
売上原価	25,500	←差額
売上総利益	4,500	←差額
販売費及び一般管理費	2,600	
営業利益	1,900	←差額
営業外収益	140	
営業外費用	240	
経常利益	1,800	←問4参照

* 売上原価率や販売費及び一般管理費率のような費用項目は、「低い」方が良いといえる点に注意。

【問7】④：(ア) 誤 (イ) 誤

ア) 自己資本比率は貸借対照表における資金の源泉側のバランスを見る安全性の指標の1つである。

* 自己資本比率は資金の源泉全体に占める自己資本の割合を表している。



イ) 自己資本比率はA社 (60.7%) よりもB社 (69.4%) の方が高く、B社の方が良いといえる。

* A社の自己資本比率60.7% = 自己資本8,500 / 負債純資産合計14,000 × 100

* B社の自己資本比率69.4% = 自己資本12,500 / 負債純資産合計18,000 × 100

* B社の自己資本12,500 = 負債純資産合計18,000 - 流動負債4,500 (問2参照) - 固定負債1,000

【問8】②：(ア) 正 (イ) 誤

ア) 問題文の通り。

イ) 総資本営業利益率はA社 (5.7%) よりもB社 (10.6%) の方が高く、B社の方が良いといえる。

* A社の総資本営業利益率5.7% = 営業利益800 / 総資本14,000 × 100

* B社の総資本営業利益率10.6% = 営業利益1,900 (問6参照) / 総資本18,000 × 100

【問9】③：(ア) 誤 (イ) 正

ア) 自己資本当期純利益率 (= 当期純利益 / 自己資本 × 100) は株主の出資に対する収益性を判断するための指標である。

イ) 自己資本当期純利益率はA社 (9.4%) の方がB社 (8.8%) よりも高く、A社の方が良い。

* A社の自己資本当期純利益率9.4% = 当期純利益800 / 純資産8,500 × 100

* B社の自己資本当期純利益率8.8% = 当期純利益1,100 (問4参照) / 純資産12,500 (問7参照) × 100

【問10】②：(ア) 正 (イ) 誤

ア) 株価純資産倍率 (= 1株当たり株価 / 1株当たり純資産 × 100) は、(分子の株価に反映される) 純資産の市場評価額が(分母の) 貸借対照表計上額よりも大きいと見込まれる場合には、1倍を上回る。

イ) 株価純資産倍率 (PBR) はA社 (2.4倍) の方がB社 (2.0倍) よりも高い。

* A社のPBR2.4倍 = 1株株価2,000 (資料4) / 1株当たり純資産850

* A社の1株当たり純資産850 = 純資産8,500 / 発行済株式数10 (資料4)

* B社のPBR2.0倍 = 1株株価2,500 (資料4) / 1株当たり純資産1,250

* B社の1株当たり純資産1,250 = 自己資本12,500 (問7参照) / 発行済株式数10 (資料4)

【問11】①：（ア）正（イ）正

ア）問題文の通り。

* 株価収益率 = 1株当たり株価 / 1株当たり当期純利益 × 100

イ）株価収益率（PER）はA社（25.0倍）の方がB社（22.7倍）よりも高い。

* A社のPER25.0倍 = 1株当たり株価2,000 / 1株当たり当期純利益80

* A社の1株当たり当期純利益80 = 当期純利益800 / 発行済株式数10

* B社のPER22.7倍 = 1株当たり株価2,500 / 1株当たり当期純利益110

* B社の1株当たり当期純利益110 = 当期純利益1,100（問4参照） / 発行済株式数10

【問12】④：（ア）誤（イ）誤

ア）従業員1人当たり売上高はA社（100）よりもB社（120）の方が大きく、販売面の労働効率はB社の方が良い。

* A社の従業員1人当たり売上高100 = 売上高20,000 / 従業員数200 〈資料4〉

* B社の従業員1人当たり売上高120 = 売上高30,000 / 従業員数250 〈資料4〉

イ）A社が同じ従業員数で売上高10%アップを実現しても、A社の従業員1人当たり売上高（110）からみた販売効率はB社（120）を下回る。

* 売上高10%アップを実現した場合のA社の従業員1人当たり売上高110
= (売上高20,000 × 110%) / 従業員数200